



かきぬいかし通信

～仲間とともに伸びる子 主体的に学ぶ子 いのち・人権を大切にする子～

<今月の巻頭言>

校長 松宮 孝明

「折々のことばから考える！」

第2学期の終了にあたり、一言お礼申し上げます。真夏だった8月の下旬から、すがすがしい秋を過ぎて、もうすぐ年末という冬の時期まで長い道のりを、子どもたちはがんばり抜きました。ある子は運動会で、ある子は図工や書写の作品づくりで活躍し、自分らしさを発揮しました。これも、支えてくださる各ご家庭や地域の皆様のおかげと感謝します。年が明けた1月からも、どうぞよろしくお願ひします。

以前、桜色の話で大岡信さんの文章を紹介しました。その大岡信さんは朝日新聞で「折々のうた」を1979年から29年間連載されて有名でした。

実は、この間紹介した鷺田清一さんも、後を引き継いで2015年から「折々のことば」を連載されています。ある年の5月5日（こどもの日）の「折々のことば」を下記に紹介します。

【だいたい子どもというものは、「親の目が届かないところ」で育っていくんです。河合隼雄】

これに「先生の目が届かないところで」もつけ加えたい。子どもの自治が成り立つ場が今、社会のあちこちに埋め込まれているか？子どもは仲間とともに、ときに少々怖い目にもあいつつ、してよいことといけないこと、どこまで人を頼りにできるかを学ぶ。これに親が信頼感をもてるかどうかにかゝり子どもの成長は懸かっていると、臨床心理家は言う。「Q&A こころの子育て」から。

どう思われますか。少々怖い目にもあいつつ・・・もってのほかだ！我が子には、ちょっとの怖い目にもあわせたくない！

そんなところもちでしょうか？でも、それでは、子どもは成長できないのではないのでしょうか。18歳や20歳になってから、子どものうちに乗りこえておかなければならないことを経験させる・・・そんなことはできません。

また、逆に、ちょっとの怖い目にもあわせないで子育てすることなんてできるのでしょうか。5歳までのように、小1～小6もずっとひっついていくなんてできるのでしょうか？中学生や高校生になっても同じ距離感で面倒見ていくなんてこと、できるのでしょうか？

大人になっている保護者や私たちも、中学生や高校生の時代がありましたから、そんなことがよいことだとはとうてい思えません。うっとうしくて離れて！と言ってしまいます。反抗期ですから、それがあたりまえですし、その時期を乗りこえないと大人にはなれません。

なら、どうしたらいいのでしょうか？子育てというのは難しいですねえ。

令和2年度 3学期の主な行事予定

3学期の主な学校行事予定をお知らせします。コロナウィルス感染症対策により、今後大きく予定を変更する場合がありますので、ご了承ください。

- 1月 6日（水）始業式 ～8日（金）3校時終了後下校（11:45）
- 1月12日（火）給食開始
- 1月25日（月）～29日（金）給食感謝週間
- 2月19日（金）入学説明会・1日入学（令和3年度入学予定者対象）
- 2月22日（月）～26日（金）6年生を送る週間
- 3月 2日（火）5校時終了後下校（14:50）、学級懇談会（15:30～）
- 3月 8日（月）～12日（金）5校時終了後下校
- 3月18日（木）給食終了、卒業式前日準備
- 3月19日（金）卒業証書授与式
- 3月24日（水）修了式



*例年1月に行っておりました人権教育に関する授業参観は、中止とさせていただきます。

卒業証書授与式について 3月19日（金）9:00～

例年通りの実施は難しく、内容等は検討中です。以下に現時点での予定をお知らせします。

- 在校生の参加：登校予定です。各教室におけるオンライン中継視聴等の方法を検討中です。
- 保護者の参加：参加人数の制限を行います。（地域の感染レベルにより人数を決定します）
- 時間・内容：コロナ対策を徹底し、短縮して実施する方向で検討中です。

*詳細については後日連絡いたします。

笠縫東小：こころの教育コーナー

はずかしいと思っても、思い切ってやってみよう

「おくびょうになるのはやめよう。勇気がある人だけがよい結果を得ることができる！」

アドラーは、臆病でいつもびくびくしているようなはずかしがりや、なおしたほうがいいと言っているよ。なぜなら、こわがってばかりいると苦しいことに出会ったとき、そこから逃げるくせがついてしまい、いつまでたっても乗り越えることができない。勇気がある人は、もし苦しいことを乗り越えられなかったとしても、そんなに傷ついて落ち込むことはないと言っているんだ。つまり、勇気があれば、何回でもチャレンジすることができるからね。君も、できないと思い込んでいることに思い切ってチャレンジしてみるといいよ。はじめはどきどきするかもしれないけど、何回かやってみると、少しずつ慣れてくるよ。君たちには、世界中の人とふれあうチャンスがあるんだ。そんなときにははずかしがっていたら、もったいないよ。

（「超訳 こどもアドラーの言葉」 齋藤 孝 著より）